

## その人らしさを尊重した 訪問看護ステーション

株式会社インフイニティ

訪問看護ステーション eight

代表取締役／看護師

貞苅 嘉樹 さん

住所：大川市大字小保467-11

TEL・FAX：094418518452

HP

[https://perachi.com/landing\\_pages/view/eightkawa/](https://perachi.com/landing_pages/view/eightkawa/)

今月の夢追い人は、株式会社インフイニティ 訪問看護ステーション eight の貞苅さんにお話を伺いました。

まず、訪問看護ステーションの業務についてお伺いしま

した。

「訪問看護ステーションは、一般的に、住み慣れた自宅で療養生活が送れるように、医師や他の医療専門職、ケアマネージャーなどと連携し、訪問看護サービスを提供するところ」

です。看護ケアを提供することで利用者さんの療養生活をサポートするとともに、自立を目指した支援も行っています。自宅に行くと、かかりつけ医の指示に基づいた医療処置や床ずれの措置や予防、点滴などの訪問看護サービスを提供するこ

ろです。特に当社では、精神科領域に特化した訪問看護ステーションで、精神症状は様々ですが、例えば統合失調症の方では幻聴や幻覚などで、無いものが見えたり、聞こえないものが聞こえてきたりすること、ストレスを強く感じ、日常生活に影響をきたしている方などへのサポートをしています」

続いて、訪問看護ステーション eight についてお伺いしました。

「平成28年4月に創業し、今年で7年目になりました。従業員は5名で、医師の指示のもと資格が必要な業務を行いますので、全員看護師の資格を持っております。私自身も看護師の資格を持っています。



外観





私は大川で生まれ、大川で育ちました。工業高校を卒業後、一度は鉄筋業へ就職をしましたが、すぐに退職し、地元で介護士として働かせていただきました。そこでの人との関わりや何かの手助けに喜びを感じ、一緒に働く看護師の姿を目の当たりにし、『もっと人のためにできることを増やしたい』と思い、看護学校で学び、病院や医大の病院で働いていました。その時たまたま、福岡にある訪問看護ステーションのことを知り、転職しました。そこで地元の大川に訪問看護ステーションがあるのか調べたところ、精神科についてはありませんでしたので、地元で困っている方

のサポートができたらと思っただけが創業の流れとなりました。

訪問看護ステーション e i g h t は精神科領域に特化していますが、実は病院の精神科に勤務されている看護師でも、訪問看護で何をしていくのかはあまり知られていません。同じ精神科の利用者さんを相手にするんですが、大きく違うものなんです。今日では医療技術の発達や日本の高齢化が進行する中、入院日数の短縮化が計画されて来ています。その中で医療機関の機能分化が進められ、入院前後の地域や家庭で受けられる医療を充実させることで、利用者さんが短い入院から安心して帰れる体制作りも進められてきました。

そんな中、訪問看護ステーションが必要とされる場面が多くなってきました。感じています」

では貞莉さんが利用者さんのサポートをするにあたり、大切にされていることはなんですか。

「特に話を聴くようにしています。利用者さんをサポートする際、その人を知ることが最も重要なことだと考えて

います。どこで生まれて何人兄弟だったとか、高校・就職の話、結婚や子どもの話、どういう生活スタイルなのか、何時に寝て、何時に起きて何回食事をするのかなど、具体的に聴いて、その人の普通を探します。一緒に情報を共有して、そこがベースになっていくんですよ。それを知らない、症状の悪化に気付かなくなってしまうんです。パーソナルな部分や潜在的な部分を知ることで、私たちの判断基準の一部になりますから。その人の歴史や考え方や価値観を知っていき、どういった事で刺激を受けやすかったのかを振り返り、これからの訪問看護の計画を立てるようにしています。例えば生活のなかで具合が悪くなった時にどう対処するかを一緒に考えて可視化して文字に起こして計画書を書き上げる。いつでも見れるその人のマニュアルを作るイメージですね。これって瞬間的にできるものではないんです。何回も何回も利用者さんと話を繰り返して、マニュアルを作ることで、刺激を受け症状が悪化した場合に、自分の中でどう対処していくのかを一緒に考えていきますね」

また、退院後のサポートも訪問看護の大きな役割の一つ

と話された貞莉さん。

「病院に入院することは、治療に専念できる環境がありますが、退院して通院しながら生活となると、病気の対応と生活を両立しないといけない事が大きな違いです。退院すると地域で生活することが始まります。ご近所付き合いがあるし、飼っているペットのお世話、親戚付き合い、ごみ捨て一つでも立ちまはだかる問題や妨げになりかねません。この方たちが、どんな風に生活していくかを一歩下がって、色んな目線で見るところを大事にしています。本人さんと話し合いながら生活のどこに困った事が生じているのかを一緒に考えていきます。元々あった生活から入院して退院すると考えると、生活から入院の間に何か原因があることが多いんですよ。なので、まずは再入院の予防から始まります。入院していた生活スタイルから、徐々に自分に合った生活スタイルに少しずつ応用していくことも重要だと感じています」

常に利用者さん目線のサポートを心掛けている貞莉さん。では貞莉さんの夢は何でしょうか。

「利用者さんの訪問看護卒業するというのが一番の夢でもあります。しかし、卒業まで

には意外に長いのが現実なんです。下手すると依存になっちゃいます。今年で7年経ちましたが、ずっと利用してくださる方がいらつしやるのも事実です。卒業した方は1人、2人いるぐらいなんです。残念ながら途中で止められる方もいらつしやいます。卒業に至らなくても、生活しやすくなったとか、生活の一部としてサポートして楽になったとか、楽しくなってきたとかって聞いたら嬉しいですよ。先日、『体調どうですか？』と聞くと、『毎回『悪いです』』と答えていた方が、『普通です』と答えてくれました。それは嬉しかったです。利用者さんの変化に自分が気付いて伝える事も私の役割だと思っています。のちのちは、そういった利用者さんの就労の場を提供したいなとも考えています。そこで、麵処を作りたいたいと思っています。いま訪問させてもらっている利用者さんが働くこともできるし、食べに来てもらうこともできます。一般の方にも食べに来てもらって、地域の中での交流ができる場になりたいと思っています。そのために今、麵処が出来たときに提供できる煮卵を試作しています。そういうった面で繋がっていくことも面白いなと思っています」